

2001 大阪研究大会

多言語社会研究会 年報1号

目次

A-1	「言葉遣い」の作法教育と日本の標準語	鷺留美	5
A-2	車椅子使用とコミュニケーション	オストハイダ・テヤ	15
A-3	日本語による朝鮮語の呼称再考	植田晃次	29
A-4	「在日」とニューカマーの接触の一事例 ——出稼ぎ労働者と「在日」労働者についての参与観察	前田達朗	47
A-5	植民地朝鮮における朝鮮語教育政策	山田寛人	63
B-1	言語復興のイデオロギー的位置づけ ——ケルノウ（コーンウォール）語の場合	木村護郎	73
B-2	国民統合と言語 ——フィリピン1934年憲法制定議会における言語議論の考察	松永稔也	89
B-3	マレーシアにおけるキリスト教とマレー（シア）語の関係 網島（三宅）郁子		105
B-4	現代中国・台湾の言語政策 ——言語法の観点から	藤井（宮西）久美子	125
B-5	日本における「外国語教育の多様化」の可能性 ——グローバル化の視点から	岡戸浩子	147

執筆者紹介（執筆順）

鷺留美（わし・るみ）

1952年生まれ。

名古屋大学大学院国際言語文化研究科博士後期課程修了。

現在、名古屋学院大学留学生別科非常勤講師。

主要業績：「女ことばと権力」（『女性学』Vol.9、2002年）、「女房詞の意味作用——天皇制・階層性・セクシュアリティ」（『女性学年報』代1号、2001年）

オストハイダ・テーヤ（Teja Ostheider）

1966年生まれ。

大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。

現在、筑波大学外国語センター教師。

主要業績：「対外国人言語行動と言語外的条件の相互関係」（『日本学報』18、1999年）、「言語外的条件による過剰適応——コミュニケーション行動の言語社会心理学」（『待兼山論叢』35、2001年）、「日本における『外国人とのコミュニケーション』を問う——日本人の意識調査を通して」（森住衛監修 言語文化教育研究論集編集委員会編『言語文化教育学の可能性を求めて』三省堂、2002年）

植田晃次（うえだ・こうじ）

1966年生まれ。

名古屋大学大学院国際開発研究科国際コミュニケーション専攻博士後期課程中途退学。

現在、大阪大学言語文化部教員

主要業績：『グローバル朝鮮語』（共著、くろしお出版）、「『総聯朝鮮語』の基礎的研究——そのイデオロギーと実際の重層性」（野呂香代子・山下仁 編著『「正しさ」への問い』三元社、所収）、「固有名詞の翻訳——日本語における朝鮮文化圏の人名の場合」（『批判的社会言語学の諸相（言語文化共同研究プロジェクト2002）』大阪大学言語文化部・大学院言語文化研究科、所収）

前田達朗（まえだ・たつろう）

1965年生まれ。

現在、大阪大学大学院文学研究科博士後期課程在学。

主要業績：「『民族語』という言説——エスニック言語としての朝鮮語と「在日」の言語意識——三世の言語習得を手がかりに」、国立民族学博物館共同研究報告「日本の多言語化」

山田寛人（やまだ・かんと）

1967年生まれ。

広島大学大学院社会科学研究所博士課程後期修了。

主要業績：「日本人警察官に対する朝鮮語奨励政策」（『朝鮮史研究会論文集』第38集、2000年10月、123～149頁、朝鮮史研究会）、「普通学校の日本人教員に対する朝鮮語教育」（『歴史学研究』第748号、2001年4月、17～33頁、歴史学研究会）、「金融組合理事に對する朝鮮語奨励政策」（『朝鮮学報』第182輯、2002年1月、83～119頁、朝鮮学会）

木村護郎（きむら・ごろう）

1974年生まれ。博士（学術）。

現在、慶應義塾大学総合政策学部講師。

主要業績：『ことばへの権利——言語権とはなにか』（共編著、三元社1999年）、「ケルノウ語復興運動における言語活動の段階に関する考察」（『ことばと人間』第3号、金星堂、2001年）、「言語論と通貨論の新たな接点——地域通貨の視点から」（『社会言語学』第2号、「社会言語学」刊行会、2002年）

松永稔也（まつなが・としや）

1972年生まれ。

大阪大学大学院言語文化研究科博士前期課程修了（言語文化学修士号）。

現在、大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程在学中。

主要業績：修士論文「フィリピンにおける国民意識の形成 スペイン統治末期から国語制定まで——創造と維持」（1991年）

綱島（三宅）郁子（つなしま（みやけ）・いくこ）

1965年生まれ。

現在、名古屋大学大学院文学研究科修士課程日本語文化専攻、マラヤ大学言語学部博士課程。

藤井（宮西）久美子（ふじい（みやにし）・くみこ）

1967年生まれ。

大阪大学大学院言語文化研究科博士後期課程修了（大阪大学博士（言語文化学））。

現在、宮崎大学教育文化学部講師。

主要業績：『近現代中国における言語政策——文字改革を中心に』（三元社・2003年）、「中華人民共和国の言語政策における普通話の位置付け」（『言語文化研究』26号、2000年）。

岡戸浩子（おかど・ひろこ）

名古屋大学大学院国際開発研究科博士後期課程満期退学（学術博士）。

現在、中京女子大学短期大学部助教授。

主要業績：『「グローバル化」時代の言語教育政策——「多様化」の試みとこれからの日本』（くろしお出版・2002年）、『日本の地方自治体における言語サービスに関する研究——「21世紀多言語社会への助走」』（共著、言語政策研究会・2000年）

[2001 大阪研究大会]

多言語社会研究会 年報 1 号

発行日

2003 年 6 月 30 日 初版第 1 刷発行

発行

多言語社会研究会 事務局

連絡先：三元社気付 多言語社会研究会事務局
〒113-0033 東京都文京区本郷 1-28-36 鳳明ビル 1 階
電話 / 03-3814-1867 FAX / 03-3814-0979

制作

株式会社三元社

印刷

モリモト印刷株式会社

製本

株式会社越後堂製本